役者評判記

チ13
3849
113

安政二
乙卯春

役者正札附上

チ12
3849
113

役者正札附　　藝品定

京之巻

此時ハ上出

益御機嫌能被遊御座恐悦至極ニ
[illegible]

校元

113

慶諸藝
相改格別
面白趣向
指上申候

至上上吉
大上上吉
大上上吉
至上上吉

上上吉　　実川延三郎　市

上上吉　　嵐璃珏　市

上上吉　　市川鰕十郎

上上吉　　関三十郎　△

上上吉　　尾上松寿　△

上上吉　　三桝梅舎　△

上上吉　　尾上松緑　△

上上吉　　市川団蔵　市

上上吉　　中山文七　△

上上吉　　尾上新七　△

上上吉　　三桝源助　△

上上吉　　尾上和市　△

上上吉　　市川市蔵　△

上上吉　　河竹新助　△

上上吉　　中村幻三郎　△

上上吉　　嵐寿郎　△

上上吉　　板東寿三郎　△

上上吉　　嵐璃珏　△

上上

嵐璃寸郎　△
三桝花人　△
市川猿猿　△
中村歌右衛門　△
市川九蔵　△

上上

坂東秀調　小
市川市蔵　△
市川家橘　吉
中村吉蔵　△

上上

中村梅蔵　△
中村芝九　△
嵐璃寸郎　△
実川実太郎　吉
片岡梅蔵　△
嵐橘蔵　吉
三桝大八郎　〃
沢村訥升　小
沢村宗十郎　△

上上

浅尾市松　△
市川三蔵　△
実川実太郎　△
中村栄三郎　△

▲若子士出工商

嵐孫兵帝　市川市之丞　市川忠十郎帝　中村玉七

士　中村勘兵衛　農　中村勘蔵　工　市川猿蔵　商　三桝稲九

上上士

大上上吉

▲実無数巻頭

丹園市蔵

▲真上上吉後見

市川助三郎帝

▲実無数後道外之部

中村友三

上上吉　中村蔵之丞

上上吉　岩井冠十郎帝

上上吉　中山文八帝　頭取

上上吉　市川市友

上上吉　大谷廣太郎

上上吉 ゆくゆくの無事を按じてぐち（くちおしの）

嵐三右衛門 △

上上吉 お敵役の内でもわけへ ごろりん

桐谷小六 △

上上士 中座で敵役の内でも随一

浅尾為十郎 士

上上半 見る度ごとにおかしさ

市川男猿 小

栄川(?)の若女形より御役は隨一

上上半

三枡[illegible]三郎 △

嵐倉九 △

姉川浮次郎 △

浅尾[illegible] △

実の師匠に仕込まれて…… [illegible]

実川大八 士

上上

片岡[illegible]十郎 小

実川[illegible] 士

実川[illegible] 〃

ござれの役は[illegible] [illegible]

中村桂車 小

嵐[illegible]三郎 士

中村[illegible]郎 △

片岡[illegible] △

芳沢[illegible]次郎三 △

大谷多十 △

中村[illegible]助 小

市川三[illegible] 、

中村東九 △

中山[illegible] 小

その外いづれもあいあい 芭蕉[illegible]

上上

嵐大十郎 △
市川蔵三郎 △
浅尾為三郎 △
坂田九五郎 △
中山仲蔵 △
門岳市九郎 △
市川助五郎 方
市川助六 △
大谷後蔵 △
市川家十郎 △
中村芝六郎 方
尾上三朝 小
中村松三 △
嵐宗十郎 小
市川家春 〃

市川小六郎 小
市川家蝶 〃
市川服八 〃
嵐猪蔵 方
松本源太郎 小
浅尾金六 〃
毛氏

別頭

中村歌六 △
嵐三太郎 方
若女形之部
嵐三太郎 方
上上吉
中村大吉 △
若女形之部
上上吉
上上吉

上上書　須川友春　南

上上書　尾上いろは　△

上上書　市川壽美蔵　△

上上書　市川新車　小

上上書　法村其春　△

上上書　丹波屋桑　南

上上書　中村千之助　△

上上書　中山一弦　△

上上書　須川路山　小

上上書　尾上英春　南

上上書　中村扇花　△

上上書　尾上寿朝　△

上上書　尾上楊蝶　△

上上書　中村効雀　小

上上書　尾上鶴　△

上上書　尾上かのふ　△

上上書　須川八寿帝　△

上上書　須川八義　△

上上

嵐陽資 △
山下宝紀 △
嵐陽寿 南
しづれもをざりのよい 光

山下金枝 △
市川猿蔵 △
浜川路之介 △
中村琴之帝 △
中山みのと △
市川猿三帝 △
浅川花暁 吉
可一三衣 △
実川菜尾 吉
中村菜帝 △
中村弦三帝 △

上上吉

清水尾中蔵之介 △
三升三次帝 △
尾上菊勇 小
中村とよ次 〃
市川三幻 〃
尾上鯉三帝 〃
嵐冠之介 南
中村友之介 南
ぢんくとハ出抜と 抜れ谷
実川勇帝 南
▲義経女形色性 交紗
▲義経女形姿頭 生徐

至上上吉

山下金作 南
ひろいハそさこそ

大上上吉

中山南枝 △

▲南錦姫形の後の部

市川米蔵 △

市川団三郎 △

中村政治郎 △

片岡仁左衛門 △

市川栄三郎 △

中村歌右衛門 △

中村芝翫 △

市川猿之助 △

市川団十郎 △

上上

市川猿之助 △

市川団十郎 △

中村芝翫 △

中村歌右衛門 △

市川栄三郎 △

中村政治郎 △

片岡仁左衛門 △

市川猿之助 △

市川団三郎 △

市川米蔵 △

中山南枝 △

▲狂言作者の部

玉屋玉助

京屋七三助

京屋寿助

成田弱七

金史朗

京屋三津七

清水若先

成田弱助

木村延助

小例

産

例 産

一長半兵衛 七 一浪人 行平鐵太夫

一同 花房義兵 一三味線 天沢多七

一同 富士見義

一三味線 坂東宮蔵

一同 拵屋弱七

南

例

産

金史朗

二文字や長尖

二葉葵助

京行正橘

井筒一泉

並木仇三

千垂

羽織

茅巣

栗

上

無類

大御大名書

▲狂言後者吏後見

▲頭取

市川海老蔵

市川団十郎

実川延若郎

三桝源之助

三桝行之助

市川猿之助

市川猿之助

市川団六

三桝福之助

市川升蔵

市川蔦之助

市川長蔵

市川長蔵

市川長蔵

小例産

有例産

丹波市郎兵衛
丹波屋又十郎
中村勘兵衛
中村万次

▲雜子之部

小例之産

一歌新中村芝翫一座之楽　一座之行者武蔵大夫
一三座中村新三郎　一門　行者三木大夫
一門　拝座依之分　一三座　露沢出造
一三座　拝座正　陸一門　露沢和市

豊後路九十九太夫　同　梅豊大夫
豊後路　清海太夫　同　咲大夫
豊後路　嶋太夫
豊後路　岩勢太夫

三味線

豊後路仙調
同　常七
同　梅造
豊後路平治

[欠九] 拙式所中法名男初代八
勿論方名(ひきうた)お株役市川家代
の稀八代目團十郎世代の弁幼年新参
与團十郎代と交後三郎と養子と
呼号先考一親芳代おなり実と市川家
代参と云べし法名養子係達の打ち名
おや義太夫の出家法名彼地と共
利の所いろく法名大坂表奥行と
お捨し而大坂所中十郎おのうち弥
生十日代目参迎の宮参り揚の宮参り
合せ近ひ新参ろう十二歳丑年浅草寺

十月一寸四方彼参中と外
浄蓮信士　天王寺一心寺
俗名　八代目市川團十郎
行年三十三歳

方に拵て出す品々を中をなかびくにかりこみ
もくと接ぎヒイキ連中旅らてのうは茶屋
かゝる所に近ひ茶敷屋さん八代目始め浦先
義経義経共に弟とうかゝと東ゆゝ乃
とん清盛さまられば拵て上へ敷百姓へら
拵て形くこの人気に実をおをうきを筆
紙つゝゞく淡路の六いつはあら形づくと
物力物体を潮中に義経の流る上り寄
の本戸取まれ浦先義経八代目猿義
経人物中と初分中に義経兵義経八
万地と照　猿賀東西挑灯出るあるも
お銭万七敷紙ケ女　義経の陸り付九
ゆゝる一面毛穂引つめ浦先義経八代
目関ケ原猿義経人分市人義経
せおとゝ拵茶屋敷六屋八関義

経の助ケ屋新市屋滝ケ屋市女屋
九義経ケ市川家の猿ケ後く並ひ
浦先義経関ケ猿義経引金也又拵
屋ゝ敷屋ゝ敷屋ゝ八代目お変屋
お初八代目くと考くくありも家
ざりうれう乗ゝ引ゝ始ゝ
浦先義経屋敷引ゝ大酒盛義
川家一流家武大酒盛浦先義経の
大家兵八代目ゝ古今ゝ八
人気でゆゝ分　陸奥殺若ゝ
沼尾表目沼ゝ実ゝ
勿論ゝ表ゝ義経八代目初
日とお拵ゝ形孫ゝ
時ゝ義ゝ初日ゝ
稀人美泉ゝ猿客ゝ

[illegible]

星七月十八日

真月寳相信士　俗名 [illegible] 行岡松十郎 年九十六歳

[illegible]

俗名　中村金助

▲若女形容姿

至上上吉　尾上梅幸　△

[illegible]

とふするわざや【二番目】コチ井つゝやへとかゝりて
今日ろ【頭取】これにて当り前なれどもよんば多くの
立役の中で夜泣しく人それ相坂と云狂
言の芝居好なれど天神町にても悪敷見え
梅幸丈の安き狂言を大当りとて又々お例
これらもとやゝそ吾されば先梅幸丈の
見物評ことかゝる非【上手】此下の敵かやく
【頭取】此方の男ぶりと芝居衆も見えまする
八代目に於ても出勤の時より所芸評
今見えや其者の役者女も其の上流
此の役者と大入の所梅幸丈因ひつけるく
出世ん出勤へめでたく早速かりも
其出勤の内中八代目にも芝居の流
死去かり月も近く御十二月に猿若丈
其の後より此の女形の狂言にて申

様子気よく此所此の女形也二つの所因出居所
娘婦振袖役【場か】此の方にも急に申す
やくと殺しの存じこれなり猿若丈出見
女形也と見物遊び女形のせつ評よろしく
此の女形也なれども立派になり出る女形
今より此の女形の評判これなりドロく
まる殿への役の女形【頭取】二役目娘
勇見其の立役の女らしくの方にもよいし
までの評判上役者ともの出合よく
よりも見え物を女形らしくへの芸存じる
見物一流にてはまだ大当りく切狂言
深見様揃え様子のおもて役者さる様
好下の所【三の役】らしく見物の上達
らしき後に出るその上の所物ものでかり
申す【見物衆】出来る流行る大当り丈式

役をばお勤なされど又く格別なる事ひとへにお
弥く別ら江戸狂言と云ふあつとイキを見
せるが眼目也へ流行いたし江戸生まれ
出おそいの事なれど又ら残されし大当り
でござりまさしたんびお役者の又ら持参を
りつりの弁 [場所] 近頃ますら九尾丈へ頼せ
がまへるよら皆云ふべし合めれば捨る所にして
らふるの弁さ [見切出] 哀り 猿若町へが義
紫乃屋菊之助どふ致し付せんへ来て芸が
評判よく それより赤面海老蔵を見付
ら上手で猿若町へ又々丈松との出
岳の石曲 尾上菊五郎座 後中あやめ
丈三代目を助くるを尽よく [板元] 江戸
高麗屋坊 錦絵の出らへ上方役者の
出来まして それより役者を流

悪くめひ又々丈役者へ見物を仏様むをく
見るそ思ひますのでござりまさ [場所] 又見物を合まか
見物出来でも安心を頼みまを出し 本のりつ
くを頼み云ふ事の見物付板を数字を
いうそ自分んなら見物て弁後を云ふを
数で合せ物の外座老丈大当り後の事
高名振り手云ふので取るを見らしゃ合言で
何も合ふさるらゆ [見物出] 立ふつの江戸狂言にも
家々を皆云ふ事を役者の外とも合言で
の難儀を云ふそれ合わせ お家騒動り
をぶりゅきまた湯殿りともな 荒次郎を
たもわりとも云ふ それ 芝居を 右よへ
せるかさがてれお事の 積合を そへいふの
狂言むか弁の合の事で見ひ弁あり
信用を数年の分後 板ら上方の事の ひ

小松はく万端様へよくさまざまの趣で御評
二の宮より平家蟹の段の陣をあらはす所
思ひの外うまくいかぬく此所の狂言が大
などはうまい事をあらはす人の哲郷一趣の上
相模の役で見せ所あれど御角廻の段
よく狂言評もなし此度は見へぬ
次の段は法師の出番より出でござる段 【外題】【沢村】 評
次は女段の見せどころく御見物の目をよく見せて一ぺんの
段は出で見せく【さじき】衆 【坂東】 【若女形】 是非御所望の
段惣段 【見物】 女狂言万端大出来大当り衆
とある十二 【芝居好】 次の持ちの場は大ていへ
立つ事をも段二人共を見よくの見処を
物見でかたは是でござる所がよく仕る
思ひそうな其の見目の場でござりますへの
ましてよく大当り 【見物】 あり場は大入

いなしてあれど上方で今度の思ひ入はござる
の様子を見せて御評判さる後段は大当り
我等が申す次第で御子は是非の見所
武者をよくと二の宮からおひいきの見物
よい所はさすがより見すぐれば後半を見
格式場面を御らうじて此の見処よりもござる
見得より御評判の見物を格別よく見る
詞をしても遠よりの見物も至極あり
始まりて評判も合ての当り物入べき事
ゆへ御評判さ今度の替り狂言のお
上手な小栄が利き所で御評判ござる
以後の場の段々で見て精が出るでござる
御評判の其節は遠方の見物もござる
まで上方一の名人で是での評判 【坂東】
二段目はよくの見物をもされん 【芝居好】 ござる
言入は久しく見物をされぬ人より見物付

さる御同座と女形がたの立身同事く
うれしその地で此方の評大当りくどうろ江戸若女形
むかし度役ゝる義方よりめでたく候
尾上松助殿の時代でも此方の評さ 見功者 まづり
ふらからそふの早替りわけかつてよき所を見せお
見せの評判お請よ顔で実事で四の間一流なれ
とおどろかず年さ年れよりよ見せそへて
男はたちの女形年さ当世摘要の見せ所
とふ年さ年さ表り 早替りの所を実事なさるゝト
中々此度の評判よりよき所を見せ なさる実より
女形の評判表り 女形での気象をかさね
ドやと申さ年さ表り 時節柄と当座衆
ふ入る所の当狂言が見物で評判よく 頭取
それより尾上流に此城の名の所評判も
地芸段々京小芝居を出精中程より出世

発足は御入来入せん代藤と別人段々 頭取
大坂よりも御勤め大坂と同評 川筋 へいやさ是
かのみならず やま当りでとの出し入れ大当り也
より当りの二段より見さって評判さる程の
ものよく当尾上家の早替りの評判連れ大
坂と同評 見功者 あのお家の御役目はでさ
評判よく当年やくとの大当りの多く
お陰で評よく ヒイキ いの当年も上方よ
御出勤の上での花々しい所を請ましく
ヤレコチノ音羽やゝゝ

▲

大上上吉 ◎ 立役中芝居 尾上多見蔵 △

頭取 役者の衆が当時は上方一方の評判大当り
音羽やの親方での評
くわへ当地の評 頭取 ヒイキ 評判さ 立者当世大芸

芝居は出勤国性爺和藤内[忍姿]エヘド
錦の縫は国性爺と和藤内でも一つの金
将松は此度の事は出世の役者は流中に出る雅
役されずば衛門様は夜は付つ次へ番羅
みなりの衣は自分が気を強くも出つけよ
勿くも皆持さへのうさまが一彈とも常ふ
此人物で出る師かう気早三がつるも太夫と
ねがふる大家其ほど此度国性爺とも前中
将へ和藤内果行先者は強ら千里が
ござけ気れ其一両なきかは何事の生来る事を物
つける拝も其は錦絵と錦絵を下場
遠ひとつされりし一両錦絵の風儀
せうて互ひ松浦も出初年よりは漁場を
良は早役者先で志めしもしさきる行
うそとぞ思ひもまると言ふ国形しして

将もよく和藤内を大入もよくものが出勤将々
とても中上京の事なり和藤内は入の出る拝
尾中分近る事り獅子と嫌も出も其方
法をがる知らぬ様にと鐘見上より無かも歳
むかうよきで我も多くはハチト子ふ将と出持さ
後耳輝との出会を ヘチロシヤ アメリカイギリス
あるどう立所よせめよてるとも日本へ神国やる
どくのそうはは陸奥場所のハいとしてよきさ
がさふもがん切替其の文より許れども毛氈
ハ錦絵も其のうさ出勤がう気くく
[役割]切替言ま裏幕と新回持の役[場の]
浅草の階も遊んるがく花出取とのちゃ流
のやうもお祝出入しよく雨夜でたううと付
力仕舞なかた悦成付向うへんで当附
うそうる持ち役はさんつつかうり拝みも苑く

二段九寸五分ばかりなり三段娘おつゆ
法華経を供養して浮世をのがれ
ご 寛政 四月十五日ばかりより月よりくらく黄色の
おゆ勘おなべ大ぜいなく 寛政 十八分ばかり
ぐわんおもはせ地こくてい寺娘段八寸ト
ふうつとうまりこの花のれわ長の大入
とうとう 寛政 それ
うり場表に出歌国性爺切字屏大
さこ弾うくに母坂ばかりて母ばかりうの
寛政 七月ばかり 寛政 ばり方ばかり十分なく
ぬぐこ段八寸五分段別うとう場ばかりご
おはまるめつこうの外こ三ケの序
でのぬうこ下やこ手ばかりこ大ぜいなく
寛政 六月安倍くに紙彼地こもうく

おゆ勘彼地こもし弾うく七月使九ばかりこ所
こ形くに出歌茶会大樹こ表の妹こうり切
切ばかりこ使九仲助大きこ弾うくこれうり
京の御くに出歌宝性爺こ又打屏井題
に出夏和市夫をおこ大きこ弾ばこうり
ばかりこ百三段長連こ大坂と
同弾ばこ歌うに出壁新こ弘誠九ばこ 川西
住用ば食ばいばこ月ばかりこ月ばかりト九
ばばこ多ばかりこ 寛政 切猫鳥こ与浅後
長連こ住用こ十分ばこうこ
ばこ下やこ手ばかりこ母坂こ南
社く妹者山こ接川の看板出ばかりこ
大地震つこ大きこ人家ばかりこ弾
看板長ばかり一こ母坂こ大弾ばかり
寛政 ばこ二段ばかり六寸五分ばこ住の用こ

寅十月吉日
増補艶自賊
掛川孫八
友三
助寿郎
花町金郎
市蔵

後狂言 逆江源氏先陣錦
切狂言 大経師昔暦
金郎
市蔵
友吉

▲ 三段巻頭

大上上吉 ◎ 三摺大吉帝 △

[訳九] 殺し形ゲ三弁ゲ並びて社家の三
本系摺やゝ物弁共でゆ弁 [トイキ] ヤレコナヲ音
ゆゝ [ヤレコナヲ] 和方ゆ義ゆ
[訳九] 去嘉中弁陸深分徳ゆ中愛弁方
大帝ゆ弁ゆ仕ゆ弁ゆ
人ゆと云男ゆ流ゆ品ゆ系摺やゝ
ゆゆゆゆ [切ゆ] それゆゆ弁ゆ義ゆ
殺ゆの面ゆ入て社ゆ帝ゆ中分ゆ大
ゆゆゆ [寿ゆ] 二段目殺ゆ三弁陸
利弁ゆ上仕ゆ飛ゆ人ゆ三人ゆ

[訳九] 殺し形ゲ三弁ゲ三段ゆ三ゆ流ゆの大
ゆゆ [トイキ] ヤレコナヲ音
ゆゆ

[訳九] 去嘉中弁陸深分徳ゆ中愛弁方
大帝ゆ弁ゆ仕ゆ弁ゆ
人ゆと云男ゆ流ゆ品ゆ系摺やゝ
ゆゆゆゆ [切ゆ] それゆゆ弁ゆ義ゆ
殺ゆの面ゆ入て社ゆ帝ゆ中分ゆ大
ゆゆゆ [寿ゆ] 二段目殺ゆ三弁陸
利弁ゆ上仕ゆ飛ゆ人ゆ三人ゆ

[訳九] 殺し形ゲ三弁ゲ三段ゆ三ゆ流ゆの大
ゆゆ [トイキ] ヤレコナヲ音
ゆゆ

[訳九] 去嘉中弁陸深分徳ゆ中愛弁方
大帝ゆ弁ゆ仕ゆ弁ゆ
人ゆと云男ゆ流ゆ品ゆ系摺やゝ
ゆゆゆゆ [切ゆ] それゆゆ弁ゆ義ゆ
殺ゆの面ゆ入て社ゆ帝ゆ中分ゆ大
ゆゆゆ [寿ゆ] 二段目殺ゆ三弁陸
利弁ゆ上仕ゆ飛ゆ人ゆ三人ゆ

く［政太夫］三段めの口は錦太夫桝太夫被仰付たる
段［若竹］大序並浅瀬川と申所ゟ次の段の文句ゟ
り[illegible]てうや世と合ゟ矣
まで[illegible]申す　［切り］序切の段の[illegible]
れ[illegible]好きしく[illegible]出来　鉄砲お[illegible]
ての出来く　それゆゑ[illegible]得　浮れ出
[illegible]風の文[illegible]
の[illegible]　［口説］お[illegible]高き
[illegible]それの[illegible]の[illegible]
まつの[illegible]一段[illegible]出来まし
[illegible]段[illegible]年[illegible]段[illegible]
まで[illegible]のうちて[illegible]して知[illegible]
うれしやふうの[illegible]して[illegible]
[illegible]［さつま］
仲の[illegible]段[illegible]［若竹］

出る流るゝを[illegible]双方[illegible]
の[illegible]段お[illegible]入て[illegible]
[illegible]別る　仲の[illegible]段[illegible]好き
[illegible]流[illegible]［政九］二段め[illegible]三
八太夫[illegible]さらる[illegible]［若竹］辻
[illegible]
[illegible]分ゟす　それ[illegible]文[illegible]
[illegible]文[illegible]とけられての[illegible]
[illegible]分[illegible]［政九］
三段め[illegible]段[illegible]
[illegible]分[illegible]大[illegible]浅田
[illegible]さて[illegible]の段もこさる[illegible]
[illegible]段の[illegible]一[illegible]
[illegible]段　［切り］[illegible]とく[illegible]の[illegible]
[illegible]二[illegible]

偉やれ此度は美濃屋らが勤めの兵部より御子
万端を衣裳に好みよく拍子の扱ひ様よく出来
婦人る重上せり女方道の名を得れぬ付られる
らふめの升さ其上此度は刀お預け一流のれん
つさ升さ 〔兄切岩〕 去一年一生坊と名のり
若道よりの出家此度の者かるる名余りに見て
るで其上手よりあつき事がよく付けまして女
出家が出家後見去つてて今までのご諸念く
〔頭九〕 切腹鳥に山名や安主殿 〔妬女〕 南隣
の段近三矢腹後の楽が何さうにしてふ
名升さ 〔素わ娘〕 山名やお腹すお浦早を
せめししつぎとうれるくあれの内心をお浦
星をつる事ひ入るく実とうりまりてまで
中分なし大出来く 〔頭九〕 此鳥なにかの
一顔付紙治が付まして別お殿へ松や

孫なりし年もお勤め成されまし大きに御手がら
なさきかさが菊枝丈には此ものなど衣裳
此お続比はよろしく お勤被比は萩乳母
へ奥名取や待とよろしく中上升 〔ヒイキ〕
是れ後段にをれて大くしたきと待まし
ヤレ コイツ 京升やく

至上上吉 〔回〕 立役之部
市川團蔵 かつ

〔頭九〕 扨此度の二の替りの三猿丈でおり升
一番目は若者出来大あれ老翁丈は姓氏て
極彩にて大入を取一月二日より始めて
別駿河の布引尾と実盛と南老翁
丈と一同驚の狭されが 〔素わ娘〕 実へ成武段は
大猿がんおさるく山升せかへる服尾は
余程評判でおり升さ 〔頭九〕 ……

お初猫らく岩藤との出合も仕内よし大分
かなりの評判〔 〕もつともあさでもおかでもよき
分かり最期が流石なりこれぞへでの評
判よ今年中まで祈念く〔 〕切狂言
格別に孫三郎のお孫立合の母よりお役へ移
りたるよの分の評判二段目の兄弟衆き札よ
よく〔 〕此狂言三段目の場井筒
入仕立がうまくて殊に衣裳も能く見事に出で
狂言の頃より名立て評判よき〔 〕
三段目の大詰で見出し舞天晴
第一の実役〔 〕切狂言の政部兄弟きさ
されど狂言のよきと思ひ出す後の評判よく半
とる出合の当藤村と仕内よし〔 〕
二段目長谷雄二切の伝授の場よく
切狂言容貌よく広瀬や彩まらしよさよし

次の狂言廻り仕内よし二段目〔 〕大詰
おそらく役者も随一と見物も悦びました
らうとも藤村も仕内よくそれより家来
役の縫姫と上使〔 〕切狂言の替り役
三河屋の孫が悦びまきぬ縫姫と〔 〕切狂言
去られ〔 〕大出来〔 〕切の源左衛門
狐忠の家や当分役〔 〕上るり津の国守
家之助を見きして誠にもよ程におもしろ
かさ見る宝場の二役の衣裳の
あらく見物の拝みなりがんになの大出来を
去りの日より御家と狂言のいのち
貴様の此の評判大出来の仕内の物語二
所やくと評判より後さそれより仕内の大出来
どうぞ今年へさろきよ〔 〕お家の狂言と評
さうぞ見物も此の上もなき事じや〔 〕二

[illegible]

[illegible]

[illegible]

切り　級張四郎兵衛尉義之科部の助成入
四郎左衛門尉義之の名字を名乗り
ける　脱文　切り張り　実は切り張り　赤穂浪人
金井長次郎義之の義父加藤左衛門尉義
ける　こと　赤穂浪人　級　切り張り　六郎兵衛尉義之
あ　ぶり　鞍の　ける　脱文　切り張り　六郎兵衛尉義之
由　義之　紙　孫四郎　と　接　ける　ける　切り張り　二級
大　義　豊　や　ける　ける　ける　ける　切り張り　二級
動　仕　四郎　と　云　義　豊　義　ぶ　ける　ける　ける
武　軍　師　の　後　家　と　名　ける　ける　ける　ける
人　間　時　出　と　名　乗　り　井　三　級　去　尾　張　後　と
仕　する　後　の　と　名　乗　井　脱文　後　と　義　御
義　と　と　名　乗　井　切り　作　り　方　接　と　く

級　義　と　婚　の　部　と　切　と　う　の　の
ぶ　ぶ　ぶ　義　婚　の　と　と　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の　の

[図] 京都八義殺 [切] 大序お俳先くるる黒
出 [図] 京都八義殺 [切] 二段目桜井の段
[図] 京都八義殺 [切] 三段目桜井の段
[図] 京都八義殺 [切] 三段目桜井の段
[図] 京都八義殺 [切] 三

とんくのるもいかまう拵せうふなすこ志[illegible]
いんとこそうふ引拵こ 切 円覚院殿三三
う侍りとこと城付ぶこ心やねぐうの四月こて
浮そうぶるもなくいを奏ぶ付院お物付賀野
秋那くうり毎三三の拵ぐうが宝殿五郎の
四孫と知うこ志中分分の拵とふぞいつ
とそもうゆうかお殿そうるこう方ぐ見拵殿
ひ付 [illegible] 三の拵う品鋒拵伝未種の
胸殿大席義浩うつぬう拵ぐうこう
後南殿丈と奥屋こう激寺出殿義九
[illegible]猶吟のう夜拵義三流う太ふ
[illegible]後ふ浪の拵死とうこう
の月三義春り中くひ川りこお殿つ[illegible]と
義整の東月こうふ月ぬがこくしん殿
[illegible]二殿流文平内の院 [illegible] 拵殿

南殿義う義り拵と後ふの院吟のう夜
拵てゆうこうれこう [illegible] 円覚院殿
倩南殿文ふ拵せぐぐこうの南殿
オトムひうう義拵て物今くお殿
ふれおくぐうるお殿と義くハうくんで
ひ拵おのぐと義ぐ浪義拵 [illegible] 三殿
義殿ふ三殿仲の千拵 切 拵拵の拵
方うと義義殿拵出ひこと義ふこでふう
ふこう倩内ここて浪ぐう殿の殿ふう
拵ぬ [illegible] 義殿拵大義拵ぐこうてこる拵
お拵出くく後殿ふ殿ふ分ふ 切 大殿拵
ふ義拵義三殿上の中ふお義の出会ふ
さうとしてう義拵内殿拵殿拵義
義うぐこうふれての義拵殿云 [illegible] は
さうふの殿拵きこうそ 大出殿ふ天殿拵

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

の腹を絞る水出さく拓殖法を考へずに
我が共産産を助ぶ是今紙布を産業
の為なりとて民間の利益を奪ふ事
の疾もなく服病を命ずる長期成程
なれども是れ人民の為に利用の程度を
味ひたるに木を採ること
世間例に出動艶色絹布
川西 此も段出おろかに段
段ものは此度の産業人民と云ふ
お段は試人を見木
川東 中程を正法民
猛なり産業段我が共産とのこと
おなじ人さ次成長強の時別段
は強を本質程
丑製 こを得大致ならば
すなわち中は此をひとを
あなの方がよきを共産有実

川西 切大行帰と我を段お拓共
分可 丑製 大行帰我を段お拓
可ものを段中の遠の出ものを
本の産業人民乱ものて始ものを
なの産を共産段共が殺ものも
を産 此産も出ものを拓共
ものを産人今別民乱ものを
共 丑製 産拓を天稲作を紙布産
共産も出産人産の産ものを段や今可
ものを時帝拓を産人殺今
ヒイキ どうぞ産段拓て産人
くしの産を拓利
ヤレコチノ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

コイツワカヘヅヘのものゝ[illegible]
弁さをれかうこそ[illegible]
とその往過ぎ[illegible]
三[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大原さまの[二段目]三段目のうち物形の方は
よく奥ぐらさまの逸話と実説の聚合石柔
の方大きさよりあり[ヒ]ちくさまのうちの
そ中なるものやとやはり[四ホ]おくらの実を
と家とう食の所辻まきうち先ずうけ行る
ところう月分をおうてけされ結ぶこれい
中ちう大陽宮殿の中うと辻まを問を形主
夜の食をはつぐてうけされそれうちぐう
三人の食をはつぐ幕のりでの形ぐ式変
いろいろ人ぐざるとう宮中さまを義ろ二流る
円形と乳ぐ入てけううてをを乳付ぜ
形ぐ[さぐ]〳〵[さぐ]三段目舞章衣後ち
大小丈形力九ち形トうとコレトうとう人あて
門にのうえいい味いめでのちまさ奥ぐき
ちまをせうあるる形の表契とううてのの

さうあるいいゆくうえ人ぐうめでのうまも
[四裏]けいろの系つり三要四や人分ろ年
ちうり浮制程力だ〳〵のりまきいで陰会
くつり孤大坂ちもお勧位内こ到て
いや分のの形せまと手長ちうこの体で
のの形こまをこ乳の流ぐ丈の丈わ
どうちうこうをいうてまさ[四裏]切程会
大経師ぐうけ三ぐう和まうるまぐる
くつさされけいろうくそれうう中後の近
付こ夫綱陽ぐ付ぎて形や孫ちや
[四ウ]いぐとあひ形の方掛付間こ会
[四ウ]天中分ち[四ホ]形程とあ成ても孤ちく
こあさうくいけ[illegible]
どめで手れ成坂けて長いな強の
出勤と行ものくやレ考くめやくく

[脇役] 扨し[illegible]小紙や[illegible]の暖簾[illegible]で[illegible]外
[illegible]例[illegible]飛[illegible]勇英[illegible]紙[illegible]
[illegible] [川面] かゆ[illegible]あ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]分[illegible]後[illegible]の[illegible]
[illegible] [さぶ] 文七[illegible]
[illegible]切[illegible]
[illegible]別[illegible]
[illegible]
[illegible]ひ[illegible]
[illegible]海[illegible]
[illegible]行[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]例

[illegible]後[illegible]
[illegible]後[illegible]
[illegible]
[illegible]

中の殘る處の諸の殘義なれども出勤
多く當新九郎殿に系小例の出勤
云月來也と列おの殺人角來也殺
大殺人つゞとあり外飛り方なく
多分自來也と又今すこの中を
あくまもなれく仕分からぬ逆義
義切うんく 【ルビ 中殺うせん代】
義と俗川右義 【ルビ 川東】 ちゝ東北殺
物奉出さきこの奉公味のあるべう
ずゝ三殺細川勝元 【ルビ 勝元】 奉公の
お勤のあれども義の金のう白猿出来
ぜ為付て知るまつ八分高孫八人
いゝ作と當時代殺の白猿出のが代
人殺のう木 【ルビ ウキ】 どふでまあ考のくく
年社の出勤と作れく

上上吉 ◎ 関 三十帝 △

【ルビ 殺】 殺代ぬ尾張やの欲出出でなれ
【ルビ 名物】 おく沼れ源れ源れ代逆
あれどもよう見栄おくもいのでなれ
【ルビ 殺】 玄番頭殿二殺り時背殺の尾
あるくくあるかかやくくくくくあり
出めるそうよりあり 【ルビ 殺】 二年赤去の
泥義う號義出號市真義おこあれ
奉公と教さくあ姫殺るらやの乳指が
大きこよりあるきさ 【ルビ 殺】 次のう養後
る源内義人体く 【ルビ さぶ】 おのあ義さる
る四切種三国泥河殺の十長三和や
【ルビ 切】 いくとあり代外お義このされ出
【ルビ 殺】 おかや奉の欲出中く小殺利きそ上
奉奉殺代代武乃林も七代又体なく

[illegible]

上上上吉 ㊥ 尾上松壽 △

[illegible]

[illegible]

上上上吉 ㊥ 三桝梅舟 △

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

上上吉 [illegible] 市川流十郎 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

上上吉回

尾上新七

△

[図] 扨は伊勢の神代の月出 後者柳の
金義光の八百万の神の義を
[図] 彼は尾上新七と成るべきもの
社会也 九月朔日より中村座へ出勤
廿四番目義経 [場] 板東の場
より宮ていらしたもの此外大きな評で
[考] 金時山義経 [場] 板東の義経 [考] 弁慶
[図] 彼の弁慶で仕るは尾上

むり 此後どやうな評は三階物者共の
おもとの出るのうち 持の評と次第の
場もあるが源老義光の出るとも
あるうち大吉今此の評でなるまこと [図] 二番
義仏実の猿若 [場] 二番
[考] 義仏実の猿若 [場] 別今の猿若
もよりの所へ大伴主殿も仕て居るとか
出どころ彼が大きくは候ひが居ぬと云ふ
上方の人物の手柄がよいとやとも向承知
出家の弁慶で素御座を作り公義也
芝居も同評 [図] 公義也 [考] 義経
いつまでも [図] 公義也 [考] 義経
[図] 伊勢国はよりのやくもの商売と云ふ
[考] 伊勢国はよりの商売 [場] 伊勢の商売

上上上回　三枡源之助　△

[賛] 京桜の名の通り其姿なべて美しく

一昨年の夏門人系図を作り三の幕より後の

中頃迄の出勤品評林名取や山平さま方

[賛] 二年ぶりの積こそ小さき事なれ物

うるさきまで巻を使ひ分ける性質和歌

[賛] 名取ぶり今の人にひとしかれど強く

[賛] 作者の筆法変化の出勤の後さまの

[賛] 本舞台二度目の出勤の後さまの

[賛] 後日後の出勤品評林奥さまの

[賛] 後日後の出勤品評林奥さまの

[賛] 後日後の出勤品評林奥

宮孫ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ切ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
小平次ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
賀紙ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]

切穂地の井戸や伝兵衛さまの屋敷
[図] 之後は体裁なる角の美形者板も
出来ごが大地震ちの人気あり之位なる
看板引廻とわるい成会く [ヒイキ] 表いかい
先ら御贔屓ての出勤を行形く [ヤレ] 者
相変らず

[図] 桜代の三役の座中の員録地位作者
上上吉 **中村歌七**
[図] 桜代形ごの面白人気の桜変の
歌五郎の七出て名作 [ヒイキ]
きまっておるく [姫] さんぜんの五さんの
評と作者と地ってきまって居作者 [図]
何分ア地女中ら地ばるるとと名作
とくの地子で名作 [ヒイキ] 者の義俳く
[図] 去年角の狂蝶狂小奴落平さ

[図] 之色二番くう桜の人伝く三役
角もの事せるんさ役姫おとくき
まく久役者桜代ものさ
色大切狂作 [姫] 中義狂作く
[図] 次の狂り養孫不忠三角大
きに伝く二役人場伝 [姫] 実の源
代大坂わるまりせるんのくのるさ
[図] 肉の作 [姫] 助平者実義作の出
会きまるで名作 [ヒイキ] きまるの
外で仕面とんと名さ人名の作会
く [切] 作井名義実の面義実さ
[ヒイキ] 者
年の狂ぬ刻さ狂ぬ狂ぬ

うれ少く 図 切れ長屋文蔵文蔵
伊藤蘭ぐるの二段続き丈と一日移り
のお勝 出 伊藤蘭ぐるの二段続き丈の出文蔵
と口上の写真でおれんちゃとしてうく
こまれれ キイ 乾蔵丈伊藤ろ々
うれくとの浮てうれてうまいく 図
なぐう返 切 長蔵丈うのもそうのもい
多く 出 乾蔵丈伊藤ろ々大きく
く 図 丈うり西川丈おれ新ゆて横
ムイ水オ与まうさせ浮ちる程のお殺
も丸へませおんざ切れ丈女優伊藤蘭
ふる 切 丈乾蔵丈出びつうち浮家よ
ムイ井さ 図 ひろ新多蘭ろ 乾蔵れ
出 図 長屋さうらまう丈今人形仕事のの
うう味のおてムイ井さ 図 後家とゆんせ

長屋との三五うもれ長ふこのきれ井さ
キイ ふる浮うく井ゆうう、 図 丈月
智う角の産二の若熊谷真実 出 種
とく山の浪長屋うう出 キイ おやまくと
一流製とかけ井さ 切 作り方場長長
分ろく 場 ひつまりとゆうんとする
ろで中くうふ出家井さ 図 丈うひつ
ろれ首おぐんとくせんのう好されまで
うまれもうふうう丈と真打ぐムり
井さ 切 中村敏の打三丈大ろまで家
桂丈と紙合ろまとふううろ大きふ
うけうく キイ 京桂屋丈うんくと
中井さ 図 丈れひうびふ目のれの扇
と井井さ キイ うまいく 図 浜屋の
浪初浮うろで三五若まんぐ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

陸のわらびと対面せり。上村ヨリ下ル部
じやうく。なにはけやうびは浄瑠璃の
大物浦じや。図説 京意く浪花三代記と
三浦屋後日譚も浪花三代記と
利キ夏ハ冷ヲ乃ち
切狂言極楽浄土ハ代清十郎ハ
代人なれども孫ハ今ハ長崎屋
を上おハ物ハ人の代りがあり夏ハ一両
家ハ冷ヲ乃ち 図説 南部九世系
小例ハ出勤自来也。南部系大ハ
ハ代ハ孫ハ。 図説 川 長崎
屋出ハ。 図説 今ハ おの男と
しハ代ハ。ハ代ハ大切ハ大坂と
同様ハ代ハ。ハ代ハ去年中 おつぎ体
刺ハ孫ハ。 図説 牧

代上ハ代ハ。ハ代ハ孫ハ代ハ代ハ代ハ
孫ハ。ハ代ハ孫ハ代ハ代ハ孫ハ
でハ代ハ孫ハ代ハ。ハ代ハ孫ハ代ハ
ハ代ハ。ハ代ハ孫ハ代ハ。ハ代ハ
大ハ代ハ。 上村 ヤレヨチ ハ代ハ

上上士 図 市川猿蟹 ハ

図説 ハ代ハ孫ハ代ハ代ハ孫ハ
ハ代ハ孫ハ代ハ。ハ代ハ孫ハ代ハ
孫ハ代ハ。ハ代ハ孫ハ代ハ。ハ代ハ
孫ハ代ハ。ハ代ハ孫ハ代ハ。ハ代ハ
孫ハ代ハ。ハ代ハ孫ハ代ハ。ハ代ハ
孫ハ代ハ。ハ代ハ孫ハ代ハ。ハ代ハ
孫ハ代ハ。ハ代ハ孫ハ代ハ。ハ代ハ
孫ハ代ハ。ハ代ハ孫ハ代ハ。ハ代ハ
孫ハ代ハ。ハ代ハ孫ハ代ハ。ハ代ハ
孫ハ代ハ。ハ代ハ孫ハ代ハ。ハ代ハ
孫ハ代ハ。ハ代ハ孫ハ代ハ。ハ代ハ
孫ハ代ハ。ハ代ハ孫ハ代ハ。ハ代ハ

義朝の後妻は信濃の国の住人藤原の[illegible]
さだのよりつぐとおぼしき人の娘なり
されば八代目の後鳥羽の院の御時
寿永元年二月廿七日の夜
[illegible]
[illegible]
[illegible]

の後に死なんとうれしさ流く浪花表
ものあとかれるものとなり 刀鍛冶 ごろもなまが
ゆかぬ夏 チト 拵 ものまいり 後藤祐乗
ものくもむざそうあるのでなりあり 切 なが
表表の助左刀 海水 幕切 大勢 ほうびや
なりこの後藤 ものとて出られんくそれ
拵を見表也と 切 後藤 沖汐
出来 図 切 千の後光 付 万場 大家の
美品 刀 大 ものまいり 高麗 拵 表 ものく
お家 刀 初 幕切 出 刀鍛冶 侍
刀 初 ものご 拵 表 ものまいり 後藤
くハ代目で 刀 なり 海よりこの孫ものり
ものまいり 切 内 後藤 九郎 文 拵 表

引 お家 ものあれ ものよく 表 刀 付
られ 大 野 頭 拵 よりこの 刀 合 ものる
ものもの ものまいり 作 万場
表 の 孫 ものまいり 高麗 切 次 高麗 鬼切
刀 猿 女 ものまいり 表 と 男 ものもむ 人
オ 加 ものまいり お家 と 郎 刀 合 ものと
いひ ものまいり 一代目 ものまいり 刀 ものれ 表
子 と 表 拵 と 表 れ の 刀 八代目 ものも
ものじゃ ものまいり 大 高麗 刀 表 郎 の
疵 ものまいり ものこの れ 合 実 感 ものく
美 出 ハ代目 の お ものこと 刀 八 弁 切
後藤 美 美 文 役 表 刀 合 ものもり
ものく 色 別 拵 ものも ものまい 表 ものも
表 藤 人 氣 ものの 拵 表 大 拵 刀 ものまい
中 刀 美 年 紙 表 よ こ ものれ 拵 表

上方ハ修行の時分ハ未だ[illegible]
と[illegible]的ハ[illegible]
役者ハ[illegible]
じんぐ[illegible]

[illegible]八宅酒振舞

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

上方の人物のめどが遠ひ沢山有りて
名うてのおいらん多てい安い風俗や大てん
きてア女ら俳の真ずでもお坊とえすー
こがこれ以上れおいらんの格式と知れぬ
ムイ丹ちゃかはいさきれはすぐく茶とけ
ひろげでおうきどはあたいとされ更
紗の刀抱こ太夫ものを大勢りとを引き
すきたと京で三とめそふおいらんでも
刀支との弱家人に絞ぶ者さおいらんの姿を
太ちぶひれど芸ぶ弱家の格を更に戸表ふ
ていさを洋ゲよ平ゲ丹こ太切者の場抜
今如女の腰結の女ものれど芸おいらんの者
氣地とえたを刀人世らく情と刀人丹の出
ちを三宗ばりいおいらんで刀丹 [illegible] ぬかど

[illegible]

[illegible] 仕分
らく人逆上方仕逆とのひ味のあでの丹
ぶでいの色も上方と格のひ方で格文
義義とたりと成出結ぶ大義者を
ものく人今のかく [illegible] 歯新の世京ゆ
例へ人出勤月来世こ娘方今ものくるの
ものを者人は者格ぶ花代ものあ
らの世人格と因伴中格ぶ代格ぶ分
ものせ高神の男出仕成更とと解かを
外ぶ仕人今平井格人世 [illegible] 格ぶの
横格との出会出会れ色名の格とを人て
形ものを更ア今の人間ものく [illegible] 表ものを
服ぶ人いを三役とを行てあり丹ぶ [illegible]
ヤレコチノ 成田為くくく

上上上 三 三 耕稲丸 小

[illegible]

[illegible]

[illegible]

男へ〻義経を上を宗盛ハいまハ〻
井花 【裂】 七月廿九日 筑後堂和尚花籠を
ゆ〻〻〻ゆ〻〻〻ゆ〻〻〻と〻〻〻

世ゝ名大役[illegible]ど[illegible]と[illegible]
遠ガ稲九くと[illegible]
金くく[illegible]
[illegible]
[illegible]

安政二
乙卯春

殺者亦祀附中

役者正札附

▲実悪巻頭

大上上吉 ㊀ 所長市蔵 あの

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

次郎右衛門ちうぶひの長幕切の大ぶ
初一段さ收びきさ大ぶ川赤切
長方さ雑物三文さ無文のお動いで
の文三ぶやとやきさ段蜜蜂角
ひ付巻ぶ格さ格潮方ぶ大序
大学さ仕紙絵どいさあ張文ふみ
らさ方ぶかかさ神さ文切二
やさ多賀大ぶ後ぶ仕桃藤ぶ三ぶ文
さぶさを入人さいぶさ延ぶ文
弥十ぶさ会せ方文三文松浦ぶ文
れさとんあさんとの花ぶの仕延文
陸方新ぶ三て落れどぶ角秋外文の
俳ぶ方場さの入藤ぶ入の赤ど浦巫
されちぐさぶかでチト巻ぶ対きぶ
巫年秋外文ぶ男の後ぶうぐ赤ぶ

と文ぶ中ぶ切ぶ三ぶ文ぶ文切の三ぶ文ぶ
中ぶ坂ぶ方ぶ文切ぶ三代ぶ文ぶ巻ぶ文ぶ
文切黒ぶ巻ぶ文ぶ文ぶ文ぶ文ぶ文ぶ文ぶ
ぶ人ぶ外ぶ巻ぶ方ぶ方ぶ巻ぶ文ぶ文ぶ
ぶ巻ぶ方ぶ方ぶ巻ぶ文ぶ文

延三郎殿のおやの助との出合 [図版]
我井郎伴こたかなりまさるどいかく
先鋒郎男を流る御家[illegible]程ぞ
うの見業のびこ中せあんぐを上一月月波
ひ業をう余り協力りいきてチト家をぞ
ざりまきそれが兵助と[illegible]
様のの利益小て藏もの脇腹平衡
程[illegible]味遠い大きこ[illegible]
伴伴こかなりあく大ぞく [図版] 七れよう
北御ぐ付ま七▲武おこ三すれ[illegible]
延三郎伴藤小れ業故武おこ中上井る
[図版] 延三郎おを[illegible]彼無業のお勤れれば武
業伴伴業ぶ[illegible]切るを封平切ぞ[illegible]ん
いとまりこ [図版] 新村荒花郎計三の九
廣五七郎伴ぐ[illegible]郎毒郎伴ぐ

だぐいづれも延三郎へのお勤れ[illegible]
別ぐ我井郎おを三郎殿と孫おを[illegible]
孫おのの古今業郎の伴ぞぐりまこ
[図版] 弱郎力せ業方例業[illegible]
郎白紙と藤陽郎平 [図版] こらぞうで
ぞと面白こがりませのぞ強会く中往
云主源氏四郎業 [図版] を義朝とお
ぞぐ[illegible]業酒のおこび八郎ことい
本改義力よりわ業をもそられる
刃拍[illegible]収び紙こ[illegible]く盛張鞍の
[図版] 義付こ[illegible]もよくせう越れる大
ぞこ今での和田合清ぞもやりこ候
立花ホトヨリて大きふが紀いこ中こ
[図版] 大紀師ぞぐの伴業のやうのお年を
よおくこの間七る羅やうりいチ業

真土吉 ▲五段後見

[図] 市川助蔵 [段] 相撲はじめ[illegible]

[illegible]

[illegible]

のこらへもよく伺ひ候ハ我ハ武家の
大のものと決定を持ち花色を好み
自宅をハ[illegible]色ハ[illegible]
面白くく 図 面白ハ世ハ[illegible]
出勤数の様子ハ[illegible] 図 おれ
[illegible] 図 二段[illegible]
[illegible] 図 三[illegible]
[illegible]
[illegible]

仕用ふべきこと

芸州藩 二段重箱作りの事

山形やの形のごとくにして、いろいろ出でいろいろの
すべりよく、月毎一統に改めびらき、江戸表切
城おこりて延ぶ。その外の人物、ことごとく
後とうに移さるべし。

切り 三段関作り

八月十日、公儀より出でたる奢侈のものを禁ぜ
られ、諸藩の人、三月目にて、江戸
次第の下地作りの事、
ぬくとうくしに出でたる事、
びんれい

改め 次の作り品評柿、蒔絵
さまざまの

切り 二段小菜箱再び指令
激甚の内、作りのやう、絵蒔絵のかりこみ、今
あり。ふるびたり。

改め 切子作り重箱
其命九のあり。この物のごとく、猛者
さまざまあり。

切り 三段
切り 二段
切り 二段
切り 二

[illegible]出勤[illegible]藏と摂州源八[illegible]
[illegible]殺が出井と敵人[illegible]
[illegible]川西正[illegible]源氏[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

上上吉

中村[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
血孫也 [illegible] 俗り方端折て付るかを
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[役] それ分場義孫次郎兵衛
云る伊与くに後藤の
孫と支配と大事は
力分の二四三河や義平次大後見へ
とあひ分おお義と出られ所へお通
おおるでなるおこ [芝の新] 七代名古屋や
おりと浦こ [役] 名古屋の義経
奥ちこりくや上市 [村] 五代後藤
ふて表に年社の御勤を行ふ
上上上回 [芝の新] 生駒宮内 △
[役] 生駒氏でなる弁当を表示かゞ
文祝英双紙と清市久郎義本軍記
伊与くに出の浦と浦愛宗さる
るの切天狗浦と伊与や表と
よくの義川浦と文ひ門義さ

次も六指を代参平ひらの横すう
平内塚紙月この人でや表人ゆまも
伊よくに分七月分の家松ゆの城軍記
行入天狗と文表浦と下人と義経
陸と及ぶのおるいづれも伊与く [村] 系
七表に年社くれ出勤と行ふく
上上上回 [役] 相馬小六 △
[役] 相馬氏でなる弁当表の城浦義
表浦ゆりと 猟師の旅さくるる
切の浦陸と表る源左ゆや [場] 一ろう
亨十郎男と流と仕用もや分の
[芝の新] 岡場と義経と義経
七表ていくるくるあり七ふふ
ちくとお嵐とくるれ表場義
来ちちくと文七さいあむ男相馬くと教

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

上上吉 ㊀ 濱尾宿十郎 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

上上十 圖 市川團蔵 小

[illegible]

[illegible]

[illegible]

萩と菜は茶山名宗全のうまも先
中侍の神でムマ[illegible]
妻をこうもりの妻の[illegible]
と結て[illegible]
▲式部の欲後の元中に[illegible]

▲別頭

真上吉 中村歌六

[illegible] 扇はぶり上方れ別座のせん[illegible]
やの大きまでムマ[illegible]
はぶ冬れ後[illegible]
[illegible]也[illegible]
二[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

川中[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

▲第 女郎

上上吉 岩井三五郎 小

[illegible] 扇はぶり[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

太郎のいひどやうこは付八ッ代と云ふ
也アラヤウ大ぶ[図]又は[図]
主例芝飛鳥[図]
仔賀武[図]
七ツ[図]
[図]
[図]

仇矢八ツ木ぬごふで素人作さう五
おゆ女と行水しく 上キ ヤレコチノ 表国や
の大きく文字をくくくく

上上吉 中村大吉 △

段 扇屋ハ傳や実国女形と若色
の大変老でゆ木 表素絹浅黄文
きく義経ふ様 素姿 夜装束流れ
仕内もヤ分四二ヤ沢浮やおきくきる
て四 女形十六歳も位なる行のやろう
ます 段 切客競ゑげ字わ弱大きこ
評ゆうゆ分くゆ坂の弱う落迎ゆ八様
表素仇女形紙ら方端ヤ文ゆけ九
チト才子ハ通きて達者ゆ生ゼ女の情
うすゆて強く切ゆ情き義おと考く
一節ゆ考れ作見ゆ出チト作りあく

ゆ上の形ゆ若と迎され力義と六色色
ゆ一ゆ考れ分ゆ文ゆ作ゆ力ゆ
てのゆもゆ出ゼ変ゆも浅作力ゆ
分ゆ色ゆ中ゆ中ゆ迎ゆハ文ゆ文ゆ
れトゆ海くゆ文ゆ色ヤ分ゆ浅く
文ゆ文ゆ力ゆる義と姿形ゆ力ゆ
ゆ力ゆ義ゆ情ゆ式物ゆ義ゆ文
実ゆ見と文紙ゆ部ゆ色ヤ文ゆ
ゆ出ゼ段 見姿 ハ強色ゆ出ゼ気と色
ゆの仕組と力ゆ式ゆ物ゆ表ゆと
ゆ考く余ゆ文ゆ物ゆ表ゆ色
見ゆ色ゆ出ゼ力ゆ文ゆ義ゆ色
ゆゆの義ゆ表ゆ式ゆ出ゼ文
とゆゆの力ゆ文ゆ紙ゆ切ゆ力ゆ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

上上吉

尾上いろは

△ 市川齋藤兵衛 △

毎年のお勤めの次の移りは業平
小九八女郎花の巻 川柳 うやうやおやくなり
多の女郎おつぎさうるの巻 [illegible] ぶ
だおりのの女郎のお勤めを移りそれ
人気浮世草紙 [illegible]
出勤と移る ○ 寿美屋の
世に出る [illegible]
[illegible] 辺 [illegible]
[illegible] 傾城
[illegible] 関西
[illegible] 出勤
[illegible]

上上吉 回 市川新車 山

[illegible] 扱ひ [illegible]
[illegible] 表 [illegible] 表
[illegible] 私 [illegible]
[illegible] 名 [illegible]
[illegible] 出

[illegible] 出勤 [illegible]
[illegible] 金 [illegible]
[illegible] 二
[illegible] 秋 [illegible]
[illegible] 間 [illegible]
[illegible] 三
[illegible] 扱ひ [illegible]
[illegible] 大 [illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

女取り月星の附長ぐの夫天殺ぐ陽
とはなりて人は様子はよりよりぐ入ぐ
なはちりひて月の人やうと上方れ番勢人
要用あるとの場所四之番勢之
大りのうけて出雲の人のべりの中と仕て
られても要用ぐの人人弁ぐりお勢ぐ
らく様子もぐく山源の沖のれば
之若元こ可要ぐられ中とのうぐ
れ要く 改九 六月六日より彼
地ともいぐくたやとお勤仕らく七月稽
角社参り稽孫七女ぐおりや
さりりの三代記こ小栄の姫 改
仕用お海こ出さりぐのまり勤仕
られ両ぐ一ぐ六ぐ人ぐふりりこそうへお
ぐが五七夫婦若使出雲人時姫ぐ去さう

るきせ孫こふうりぐりりこと切程
伝様様ぐの小流ぐりりく 改
九月分り品番こりと湯長 芝ぬ
似り方煙よく義似との出谷ぐのぐ
うりりかりもりふりりこりと分
ぐ大ぐ記く 改 芝ぬ伽羅こ中光沖
の弁れ数の時改景ぐりぐ八ぐれ西こ
とりこりの仕用大さりりぐ大ぐ記べ
赤切二ぐ大ぐ記く別こ沖の弁こ年
の沖ぐ弁ぐとりれこ去ぐく 改 芝
度こ在京出例出勤月末出代長
さりりの二ぐ姫みぐり 別 ぬの
りりさりりぐりりぐりりこ切出代長
の沖ぐ弁ぐく 改九 ごぐも表れ頃
故ぐて記くりりと仕弁ぐく

上上吉　い　法村其義

[illegible]

[illegible]

[illegible]

表紙 川ホ 名うかおなく八月ろがくの表
一ぢんぢん茅ぐいて行ところ矢方保の里
さーうをあ 姫おゆ仲なれやつぶ孫
小女所おるさーうをあ 図 天満宮
ヨ小ろる 川ホ いのとうんぐらがぐうま
せうんぐ花川戸は仲孝おあるうかおれ孫
丈ぐるあ大ぐ 図 次ぐ孫ぐおの猿こ
おこ 川ホ いぐとおひ式がお孫こうされ
まりこひかをこうをとあ三時間間合
のうも半くえおとうあく出されまりこ
おを掘くこ二ぐ松ぐ女孫おりこれぐまづ
中社ぐうまりさ 図 切蝶紋背こ厳後
みやこさと孫を孫ぐ孫ぐ孫ぐ

佛自来也談
中鬼一法眼三略巻
後伽羅先代萩
切江戸仕入侠安賣
大切六歌仙花粉

[illegible]

芳の姿 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

上上吉

[illegible]

中山一信 △

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人おとこ三ゐ[illegible]

見雷也と妹ごぜ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

△[illegible]

上上吉

[illegible] 実川勇次郎 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

[illegible]
二月廿日　[illegible]
[illegible]
[illegible]

本座更衣の方のうりさ若女がくと
結形くく【ヒイキ】やユヲ天まちやの大
きなくく

▲若女形巻頭

大上吉 ㊗ 中山勇校 △

【評】扱式形ずか結の形の三代津ゑび
の代若女形の名人ゑやの大きなゑで
ゆうれ【ヒイキ】やレ結て形くくの最評
くく【評】きまき中ゑ漆分縁は若
若の方大座【芳名】今他ゑ新華ゑ
と三人の中ゑ有枝ゑ代ゑ別ゑ若若
大ゑ迎ゑ立流ゑ右三人の中で別形ゑ
ゆうて人ゑ入りさ結ゑも大きゑ
ゆきさ迎ゑ名くく【場】梅井ゑ若若ゑ
右ゑ人物と新ゑとのゑがいゆうとして

味いめでゆう結ゑ三年八若妹ゑ
【芳名】大座ゑ立形ゑ三ゑ八若の
ゑ勇ゑ結ゑ形ゑ他ゑ見ゑ初ゑめゑの
ゆうゆうゑお役ゑかゑくゑ【評】
ゑう代ゑ代ゑ方の若形流ゑ見ゑ立ゑ
く三年形ゑ梅ゑゆらいゑく若
若の形ゑ代ゑ評ゑる形ゑ勇ゑがゑば
形の仕内ゑ人ゑ代ゑ井若の形
ゆ迎ゑゆゑ大ゑ若ゑ平ゑの若若ゑの
情浮く味いめでゆう井ゑがゑの形ゑ
結ゑく【場】若ゑ形ゑ場延ゑ若ゑ若ゑ
ゆうゑ結ゑゆゑ色ゑゆゑ大ゑゆうく
【評】三ゑ結ゑ品評梅いてゑの景【場】
大座若若若流ゑ延ゑ若ゑ梅ゑ人ゑと
梅吟ゑの方縁ゑ大若若ゑ結ゑかゑゆゑ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

安政二
乙卯春

役者正札附下

名ちがやのつ名

五文字七文字を
一座乃役者
七文字七文字の下句
陰場本神女耳より執
宗匠乃巻題を
狂言より着板
を亦於繁の遠ひ
せり如乃祝ひ

振名ばうしひけちらす
小ゝりもちとおさびと舞遊屋
色紙短冊
売いき役者職人引
漆間見物流のこるゝ
雪月花の風雅を
紫雲はほ紀忠
歌嘉妙乃紫
長ゝ全述

名古屋大安寺役者目録
若衆芸者名代　松平左馬之助
楊所芸者名代　山崎左馬之助
△丸三百人（百人ほうたのめ）
○徐座ゝ役者々△下
大上上吉　▲三役巻頭　三桝大文字
上上吉　▲三役容座　関三十郎
上上吉　▲三役之部　三桝源蔵

上上
九代目にあらざる宵の月　市川猿蛙　芙
上上
うひなくたんぐわたれ　尾上新七　△
上上
名古屋でも嵐とのみん　坂東秀調　芙
上上
義付てあるる曲事弁とすがの　三桝他人　搗
上上
娘達人者れどそそ思ひとめ
上上
ものやおもとの人乃とまで　坂東玉三郎　芙
市川新蔦　搗
浅尾民十郎　芙

上上
功名中やせるあらぶ景の心　尾上和喜　芙
中村猿三郎、　尾上猿之助　搗
上上
市川大三郎　芙
実川延若郎　搗
沢村紀久郎、
中村猿三郎、
上上
市川大三郎　上　市川市之丞
上中村猿九　上　中村寅之丞
功上上
名古やのとのかりみのみ乃ものも森　浅尾徳三郎　芙
▲実録敵討外之部

上上上上　中村芝叉市　芝
人ぬがおかしがる彩色ぶりなり

上上上中　大谷廣右衛門　揚
ちらと見れば見るにいづこも同じ

上上中中　山村良橘　△
ちらへやちらへやちらへかつまとり

上上中凸　浅尾與五郎市　芝
名古やと形ばかりなれども

上上中中　市川團蔵　〃
かつらの代りに手ぬぐひ

上上　中村芝翫市　揚
はなちらとちらちらの代り

中村芝叉市　芝
市川團蔵　〃
市川森蔵　〃

上上　片岡松右衛門　〃
片岡我当　〃
尾上松九　揚
坂東彦十郎　〃

上上上　宝物ぶめ　くるくるれくるる際くの
成田屋家芝　芝
松平弾右衛門　〃
中村賀松　〃
市川八十助　揚
関　三九郎　〃
三升家小助　〃
大谷鳴右衛門　〃
市川我三郎　芝
大谷友右衛門　揚
人ぞもう見ぞもうみざるすぐ

上 中村芝右衛門
上 肖像八
上 中村梅千
上 大伝右衛門

▲若女形

極上書 中山南枝 楷
何もとらぬ新川の梅ぞ
▲若女形うく郎
上上書 尾上菊五郎 美
近寄難し今の女郎花ぞ
上上 坂東のり治 楷
古里さむく夜うのなろ
上上 中山一徳 〃
花ぞ
上上 中山岩三 〃

上 中村四方
上 坂東蓑蔵
上 肖像蔵
上 坂東大根

上上 市川鰕蔵 美
めれ中ぞめ
上上 尾上菊郎 〃
ぞ
上上 肖像 三猪 〃
乃若
上上 中村芳雀 〃
上上 市川三の蔵 〃
ぞ
尾上梅枝 楷
小猪川延枝 〃
市川猪谷 美
中村亀三郎 楷
肖像女三

乙女のゝ姿ゝ

上 浅尾浦平兵衛　上 中村花占

上 尾上猪之助　上 貴源三郎

上 中村猪松　上 小坂川七義

▲若女形別配

功上吉　中村歌六 義

どうしても若ゝ女形の役ゝ

▲角役形の役ゝ

関 花助 猪

貴源太郎 〃

三升行義 〃

中山伊八 義

尾上宝松 〃

叶 瀧 江 〃

中村歌江 義

中村芝長三郎 〃

中村八百蔵 〃

浅尾金蔵 猪

小坂川七三郎 〃

若女ゝ座

一庵中清吉　一牧田徳次郎

一中村宝女郎　一中村宗七

一桜谷長女郎　一行幸地文蔵

一猪沢竜女　一行幸成之丞

一猪沢吉市

猪所ゝ座

一猪又行猪　一桜谷寿十郎

一芳村万吉　一桜谷文三郎

一桜谷小三郎　一西川富吉

一常盤漢仕尾奏　一岩沢武治

一月　吉字太夫　一屋沢柳和
一月　梁太　一竹本戸志ち文
一猪沢小市　一竹本八尾ち文
一竹本浦志文　一竹本角志文
一猪沢茶志

頭取うく郎

嵐志ま　帝
尾上浪蓮次郎
姉川伊志ろう
中山定次郎
浅尾亀志郎

取うく郎

中村兎文帝
嵐雷志ろう

誰もかもあるく人をせんさるかれ松　市川海老蔵　著

狂言作者あるく郎

木場延助
京河政志ろう
鶴蓮文助
鶴清緑行

猪郎

鶴亀蝶
鶴秀助
京河矢助
鶴巻秀

千穐万紫糸大くけ

至上上吉 回 市川團十郎 様

名ゝ様ゝおがれて様ゝとへりゝ

改 御番所清所中の異教を拝見
ひめさこ大ひそ心商売の人動乱
成田やの八代目三升屋でゝ三升屋
新門前猿屋出勤分々ゝ対面
も致ゝ人数の猿屋ゝ
あれ門の門ゝ
門様下様人もいゝ
初様出ゝ七月猿屋ゝ
ゝ猿屋出勤ゝ
市所中ゝ有様の
日や初日とゝ
数集ゝ一流
いよゝ初日ゝ

大盤出番毎月恒例場所ゝ所ゝ
かんぜーと始メ夜ゝ三升ゝ
園十郎絵市川ゝ八代目俳優両
ゝゝ三升屋ゝ
所中一流大流
地出勤ゝ
近ゝ
ゝ
ゝ
中ゝ
ゝ
ゝ

死去の時にて御ぞうしこれいなく
突伏おそれおりとヒイキ連ハヤホ及ぶ市
中一統先と悔さ数長ハ山り中せるんざ
ハ長年とのひハ無孫とのひ方の大狂
ありさ之長金者宝鏡の世と云ぶり
ぶ子もめさめぶ対ま世ぬ[オヒ]てこく
ぶ板さんをまりぶ子ぶ浮ぶすとヒイキ
流やん物ハ行く猫ぶせあのたまろ
ちやあひろんあ方ぶうのふくもうろ成
ろぶや更せあて追長れ為出鏡中城長
伴と寄てちされ[現代]長りれこ作まの
あり悔んぶ御て御ハ早ぶのりれぬもう
東方長熱伴ま加ろれふ七月長長ま
与信情浮名撲帰大席ハ月名ハと
て為七長清浮ぶたんぶり長長

万物大祓四でのりれこ三ぶく一番月狂
伊長ぶ与ぶ宮長ぶ長ぶ浮ぶすづ浮千のぶん
[女中連]びりりりまるるかりの長ハ勇まぶ
ありさ[芸者姿]死ハりまれあぶありりりびハ
変変ますこれれるか長長、まて秀
用失今ぶりめぶていぶく浮れ咲ーと
咲く内ハりりてれるまの拾ぶ四ハ大
まりりでりれれこ[九月]後業ぶりぶ失ま長
とのぶ失今ハりれれる長ハもりんまの
ぶりりまこりりまこ[九月四日]保長業ぶりぶ長長
藤で新ぶかーてりりのをそのりと浮れた
りり狂ぶりりりこ会ぶりこ情ぶんぶりと
いんのりりちとぶりりりこりりりりりりまれ
りりりりりりり

[さき] 二形同志の[役者]の形おとみが初
度出び身うおとみとさ一向ひうはて
やけるを酒とのまうと乱のうちう場中一
流交れすと [場ノ] 後添ちとさ見あくん
さんなぶう殺しあのうを正形う左殺ちか
る [脇連] めの添ちとはて形のへ見
猿獄猿とやしとぞうおてうをいて
やうとふおうすと [ムダ] おとうりだとうだうの
出てうちが正でみふ [脇] 後ちのト寿宅
場ノ猿実輪婚の妻と義が生れ
妻が妻がとやいふて形う角おとみとんさ
の後形紙りとえんへおめやおとと
入られとうのえ場中一流成思くと
殺とうみと [トのの女] 松実の形も大きければ
が出ずとおの役者のんとむのうらば

之外さんのとうのいう形うもるる
なりて舞かるるでうみと [場ノ] 実ノ
白猿実ちちうりうと今とりうちを
やうの [芸者] [後ノ] 後ノ実義とうを
上ておとみとのぢや村へよりうさ [ムダ] 幕
切芸ノ人ノ産れ芸でうりうと
和実ちの形猿[役]実ノ幕ら
おとみとうれ芸ちより来りう小姓の
犯験とんて猿実ちて信中ノ [ドツオ] ドツオとふ
[芸者] 後番猿新人実小姓がおて
知ッて形うを実と形の猿の猿中と実猿
なりぬ形でうみ [芸者] 伊藤や門ノ猿
ぶうを猿の門来り後猿ちと実
おりのとめぢれ実今も猿場ノ和

一條殿と申す御二方（さき）後久須門殿
さうるの御保元の御合戦に
るる事一方ならず候代分延ものと成り
らずの人中くお覚えもうさず（ひろう）二
度目は芸源平の御時屋島壇浦
殿へ御ごろ人外ゆゆしかりしふせう（人物出）
此人は幸海老義経の動のうちに新美兵
の勝敗とうけたまはり三郎と性西の嫡
孫にて有ける故なるべきと
文武ともに（清盛）清盛公の実の八
代目なれば御合戦の御事
とかくかんれん（ひろう）切者武蔵国西の場
列おゆ八十郎さうるもの
はとの人和とと人歳付る清盛公人
中ごとの事は人間長成人今八代

目おとのかなを極く（人物出）彼の程長長
忠長義さの師匠後藤ケ井長成いらど
ゆゆしかれおとこの（実の）
実子なかりしかおとこ（実の）
新の御ゆ重ねて行ゆやうきと
ゆゆしかれとこ
中ゆおゆ再ねて入道して
ゆうふうきこ何りしかで
業ゆ実ゆ迷でうゆ猪熊成義猪
御殿のゆとこ
よとくどうようふと
ゆうこゆ人さうの
ようゆ人ゆ実時ゆ
ゆ道ゆ利ゆ（ヒイキ）二階堂
ゆうゆ俗実ゆ二ゆ

きれいなる月の月やうなる物
みるなるべしとかやうなる物
肉屋の前の物の所にあるもの
とつかへ板付のもの
智恵のなかにとりたちと一つ
いつまでもかどうはさらひ入れ後と
はなれ物時はものをくもるも
はなれで板付のもの
さくしんはなるものはなれ
きさ 【ヒオキ】 保後板付と
西沢 今のうち始末の部中とは
【三の部】 なんとかいふ
如こ 後はれ物の用をとり
今の初年とは
はなれ物後はなれ後云

【元物】 二月業
なるべしとかやうなる
物の所にあるもの
板付のもの
はなれ物
はなれ
はなれ
はなれ

でゐるあこ[元物]屋敷の大屋根の下の部屋に
ヤかゐりあめが何分に成ても一向に
止も有るものさうなるものゆへ
家ゐて居るか大役の勤らるかハテ
[図]四枚屏風を見る様なもの
の上に花の模様物語なんにて絵さ実な
ら出来中行後くも流石の大体勤人人
今く三井寺の[ヒイキ]寄物
見ゐうとうれ成今も因生なちくくして
中度ゐりまるかゐ[賛]れなく
第ゐ人もやと上る通りあき盛りの牡丹
花と一番の花は[ヒ]ゐ実さ役者
所中でも出ゐれ花者なあるさ三井寺
ゐりいるでゐりれ[ヒ]ゐ実さ
一遍の作四位とゐ[ヒ]ゐ実さ

大上吉 ◎ 三桝大文字

[賛]梅井の国源氏の方は[ヒ]ゐ実さ浪花
人のかゐ[ヒ]ゐ実さ梅井でゐりゐ
[考]梅井は源氏の方は[ヒ]ゐ実さ
も宜ゐ今でハ役者は大物と成る中
九年目の[ヒ]ゐ実さ出来るでゐりれ[特]
大当く行きられ行きて大当り成
[賛]梅井[賛]来年の三月
作者所芝居ハ出勤ちゐ月九日の月
報ゐ人ゐ実さ[賛]ゐ実さ
ひらかな[元物]いろとゐ[ヒ]ゐ実さ
いひ男ゐ人ゐ実さ
あるゐ梅井さ住居も十分の物語り
月も家付てゐ平清

[芸品]保繩茶[ちゃ]の[を][て]
う[う]ふ[ふ]ふ[ふ]ふ[ふ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[切] 切種々の事
[物] 東海
[道] 道中
[物] 次新
[切] 切種々の事
[物] 次前
[切] 切雲関龍宗寺
[物] 次前
[道] 道中
[切] 切大嘉善寺
[物] 次前
[切] 切種々の事
[物] 次前
[道] 道中
[切] 切種々の事
[物] 次前
[切] 切種々の事
[物] 次前
[切] 切種々の事
[物] 次前

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

▲ 五段ゑく部

上上吉 三桝源兵衛 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]と勇ましく申すこと師匠者こと[illegible]
[illegible]人物の技でよんどころなく助らるる
実これ美年に似合めうれんと 切り三
やうの待遇をなる月夜を動不出
会所用意の合かるる内こるを
切り保実と入れ物と考る故猿
[illegible]と評判くれ徒者 刀鞘 ありり
実と入こて[illegible]の本で[illegible]
[illegible]の品い入れ出ちを美のでムり外
猿義実のを主義節の物品
孫弟子幼年に似合物者切者[illegible]
[illegible]出[illegible]内ごそ義養ことを
つの振[illegible]そのやうと小
細工の振物[illegible]
彼[illegible]美年故ひこれ[illegible]分

[illegible]の[illegible]
[illegible]ヤ上京 段 [illegible]
[illegible]
[illegible]
[

三年も三年も名ばかりの名ばかり

[ヒイキ] ひいきの婦人達は

[ヒイキ] ひいきの婦人達は

延猿らつ〳〵

上上

[役者] 新七 [家紋] 尾上新七

[役者] 新七 [家紋] 尾上新七

[役者の姿] 俳優の物腰の物腰

[役者] 門之助 [役者] 門之助

[役者] 新七 [役者] 新七

[役者] 門之助 [役者] 門之助

[脱文] 七郎が長崎奉行に出勤被仰付
候ハ[ハ]ハ[ハ]ハ[ハ]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

▲実悪鈍設道外之初

上上　中中　中山文人帝

[illegible]

[illegible]

[illegible]

正沢小義を右門蔵と称門ニ不寄ニ[illegible]
[illegible]ふ[illegible]き　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]

大谷廣右門

[illegible]万能丈改名有て丁度九ツ年あの[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

一ぬくとの事ハ拵ぜりふも拵らのが出ル和
尚ハ今ハ宮ゝ盗ゝを淺ハ代淀ゝ殺
ゝ行て居ゝ殺ぬくと三將ゝを拵ゝんぐゝ
お遠ゝ外 [改] 七ゝの長淺ハ長ゝ大
ゝ淺ゝく土手拵ゝ掛ゝ淀ハ
大ゝ淺ゝく淀拵ゝ長ゝ淀ゝ
おゝ入ゝ [見物] 関三郎淺ゝ
ゝ関文ゝ三ゝ文ゝ拵ゝ [トド] 文ゝのち
ぐゝのゝ対ゝめゝ [切ル] 淺
淀ゝ流ゝ幕切近ゝ [見物] 幕
切ゝ人ゝぐゝ人ゝおゝ
ゝ入ゝ方ゝ焼ゝ前ゝ対ゝ出ゝ品物
ゝ幕切ゝ淀ゝ長ゝ
ゝ淀ゝ殺ゝ

出ル淀ゝ長ゝ淀ゝ
ゝ淀ゝ外ゝ
ゝ淀ゝ外ゝ

極上上吉 中山南校 作

[改] 初ハ所ゝ元淀ゝ長ゝ中ゝ
大ゝ文ゝ拵ゝ文ゝ外 [考] 八ゝ
ゝ淀ゝ外ゝ
千淀ゝ天保ゝ年ゝ淀ゝ
ゝ出ル初ゝ中ゝ
動ゝ淀ゝ外ゝ
ゝ文ゝ外ゝ

[ヒイキ] 千ゝ
ゝ年ゝ代ゝ
ゝ淀ゝ外ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

トヾ花たゝ這入らくちおぼこ娘の
付一端くれんぐれ沢山やうの [場ヵ]
こゝ廊文書多ぎく表紙の三流筆
紙こゝ月々こゝ出常盤津浄瑠璃 [丸物] 南校
出法り酒呂呂呂でぐりおこ
のお貴おりて殊異のいと人あく新り毎
同新宗門おかれ大入今くたこのおこ拙く
[改] 九月初り八陣新所やうやう
お殺浮こ変なあるく [芸者] 新場大
み氏一法ぐ力とひこの弟初て撥ひ
ハ黄くもこくこ孫く義切を中分
女婿の物も嘆ひ初てりおこ [さし] 切
千両幟こ女所おこ式あ物りおこと
けらこ内角力数付とこ入せて今年大
ひやうこ上りてあるこ美丸住ヶ多関取

の女所とこ丸おこ [丸切] 保土美村こ
きそこ戸長陣ぬくこの出りまようまこ
けがのあのうこのあもこ美村こるく
老こハ千多のあひ入宮こ出りハ下は
ハ丸有てお新同初目とおどろかこ
思ひ出かチト小細のやうこ思ひおこ [七年]
まりこ答ぬやおこ初めこ何せこおら
こ故同ドハ嫁こ仕こチョト流こ仕こ
このやおここのサリハ十人ぬ十人を撥ひ指
てあるこ南校出ぬ [校] 新美
でりおこ [丸美] 新こ美村こ
強てあこ強てあこ出ぬこりこ出る
強て金左関取村よや出こ
ハれ外出ぬあハ細の南校出の三
若でハあハ外こ出りわやが指てこ

かごうあてゑもがみ有やや南カ今あてゑ塩
月と賣て金と換とこうはいへ入ものうう
いうまでかあてゑ塩おかごうあと賣とこうあ
ゑもうあとこうあ物すこうあれどけはいへ入
うんん実と彼ものめ客とこうけを
までかうれ巻要形流へ南枝ゑとうあふ
やうたかさうがれ要く切関の龍ま
小町那っ雲深ゑ長ゑううがれくえ
かとうあ作津ものかり別っ珊瑚珠入の猪ゑ
うのく長ゑ長枝の枝ゑく 切 用途物ゑ
やうとさんごゑ入の猪ゑやのとまやあ評
刺とうゑて巻評とうがやく 又物 イヤモ
南枝ゑ刺めのがやゑ小町雲深ゑ
紀ゑ 切 巻ゑ長ゑがめくゑ長ゑがゑいゑ
一向さうゑ関の戸と刺巻ゑ長ゑ

ゑ
ゑ
ゑ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

の子頂戴く　芸者品　源右の内侍殿の子
三ツ巴の紋ぞ　丸物　丸で一日の内
と思ひ給へ　場　七位源左衛門尉
海松松に追ふ海の
源氏の物語　芸者品　源右の内侍殿の子
三ツ巴の紋ぞ　丸物　丸で一日の内
と思ひ給へ　場　七位源左衛門尉
海松松に追ふ海の

芸者の物語　芸者品　源右の内侍殿の子
三ツ巴の紋ぞ　丸物　丸で一日の内
動かれど　丸物　丸で一日の内
と　芸者品　七位源左衛門尉
我と　芸者品　源右の内侍殿の子
　芸者品　七位源左衛門尉
　芸者品　源右の内侍殿の子
業平　芸者品　七位源左衛門尉
乃と　芸者品　源右の内侍殿の子
　芸者品　七位源左衛門尉
　芸者品　源右の内侍殿の子
　芸者品　七位源左衛門尉
　芸者品　源右の内侍殿の子

[illegible]

[illegible]

[illegible]

沼尻表かれ出う若衆共仕動りて
ヒイキ めでらくる義評く 段九 下部知
仕りまつる別者の紙とみて居やうなと
おもひ入さおでりまつる外 オん物 いつとても若く
しく仕連者おんでりまつる外 又切業 欲六段
余り遠者るて十服目のうまひ付もバタ
くと仕出振るとうるのさきごろのり
外様仕間とおりてやかかる者ども近へ者
者切でりまつるく 段九 切狂保とおき
めるとうまりまつる オん物 彫り方燈大提灯の
義ものと又へ桜の長木東やうれ長の多
引とれが海老義張ものと義ものたひ小丸
うりる二重と義 段の出る名者食ての
幕切る男らひけるみるく新の稽りあ
ひおるさへ欲六段のかけ仕まつりぬ 物の 振

海老義失張ものと仕るとの上表と門い
きうりれ者り付の男ども者ものえ仕行るふ
ムりまつるれが出もおづつ付もえ本狂
言ならるとへくるく四人今附の若衆あ
とへ遠ひ狂言実ッがムりまつる 美のお 妹背
山三服目が付りて実家や衣装万燈
提よく者実此後家とと又へ者 物の 仕間
もや合かけ出の物が付りてうお振て
又へ物が出まつる合く欲六段のおを振く 段九
それうる長法美形仕動仕るいて生動仕るくもうへて
有て鯉田美形仕動これも仕る魚
釣り若衆美形海老名撫指小姫や乎
かおやへおほ入さのめてりまつる 美のお 弾と
けおやを沼尻表おのて欲六段で義さ
お後りえとれのへ者れてりまつるけ仕りまつる

[illegible]

切小深平御頭の外ハ[illegible]河孫兵衛[illegible]

登十郎[illegible]

[illegible]近年[illegible]屋やでハ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

切[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中くまれもあるべきことでもあれかへりて
切腹田畑を掠奪せんとの
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[欠文] 此光の仲丸弁慶の猿丸の[illegible]
あてこの[illegible]みでもうく見へけまくれ源まの
弁の左右振[illegible]さ[illegible]
しこ舞[illegible]
成と[illegible]弁慶[illegible]
[illegible]て大剣[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
の切り[illegible]弁さ [芝居] 後難の[illegible]
大[illegible]大剣[illegible] [欠文] [illegible]
三[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

入ると云ふ事なり内入とは
の間切縄張る事なり
外れと縄ゝちとは遠き事なり外れ
[三十四ノ表] 切縄張る役
[三十五ノ表] 二間若くは三間
[三十六ノ表] 後十間
[三十七ノ表] 二役加賀外
[三十八ノ表] 役
[三十九ノ表] 役
[四十ノ表] 役

[四十一ノ表] 切
[四十二ノ表] 岩永
[四十三ノ表] 岩永
[四十四ノ表] 岩永
[四十五ノ表] 切
[四十六ノ表] 切
[四十七ノ表] 切
[四十八ノ表] 切
[四十九ノ表] 切
[五十ノ表] 切
[五十一ノ表] 切
[五十二ノ表] 切
[五十三ノ表] 切
[五十四ノ表] 切
[五十五ノ表] 切
[五十六ノ表] 切
[五十七ノ表] 切
[五十八ノ表] 切
[五十九ノ表] 切
[六十ノ表] 切
[六十一ノ表] 切
[六十二ノ表] 切
[六十三ノ表] 切
[六十四ノ表] 切
[六十五ノ表] 切
[六十六ノ表] 切
[六十七ノ表] 切
[六十八ノ表] 切
[六十九ノ表] 切
[七十ノ表] 切
[七十一ノ表] 切
[七十二ノ表] 切
[七十三ノ表] 切
[七十四ノ表] 切
[七十五ノ表] 切
[七十六ノ表] 切
[七十七ノ表] 切
[七十八ノ表] 切
[七十九ノ表] 切
[八十ノ表] 切
[八十一ノ表] 切
[八十二ノ表] 切
[八十三ノ表] 切
[八十四ノ表] 切
[八十五ノ表] 切
[八十六ノ表] 切
[八十七ノ表] 切
[八十八ノ表] 切
[八十九ノ表] 切
[九十ノ表] 切
[九十一ノ表] 切
[九十二ノ表] 切
[九十三ノ表] 切
[九十四ノ表] 切
[九十五ノ表] 切
[九十六ノ表] 切
[九十七ノ表] 切
[九十八ノ表] 切
[九十九ノ表] 切
[百ノ表] 切
[百一ノ表] 切
[百二ノ表] 切
[百三ノ表] 切
[百四ノ表] 切
[百五ノ表] 切
[百六ノ表] 切
[百七ノ表] 切
[百八ノ表] 切
[百九ノ表] 切
[百十ノ表] 切
[百十一ノ表] 切
[百十二ノ表] 切
[百十三ノ表] 切
[百十四ノ表] 切
[百十五ノ表] 切
[百十六ノ表] 切
[百十七ノ表] 切
[百十八ノ表] 切
[百十九ノ表] 切
[百二十ノ表] 切
[百二十一ノ表] 切
[百二十二ノ表] 切
[百二十三ノ表] 切
[百二十四ノ表] 切
[百二十五ノ表] 切
[百二十六ノ表] 切
[百二十七ノ表] 切
[百二十八ノ表] 切
[百二十九ノ表] 切
[百三十ノ表] 切
[百三十一ノ表] 切
[百三十二ノ表] 切
[百三十三ノ表] 切
[百三十四ノ表] 切
[百三十五ノ表] 切
[百三十六ノ表] 切
[百三十七ノ表] 切
[百三十八ノ表] 切
[百三十九ノ表] 切
[百四十ノ表] 切
[百四十一ノ表] 切
[百四十二ノ表] 切
[百四十三ノ表] 切
[百四十四ノ表] 切
[百四十五ノ表] 切
[百四十六ノ表] 切

尾花 都符 菴可様

補浪 長々舎 都様

助

後世に名を残すべき人物

江戸三度物後者員様

猿若町一丁目 中村勘三郎

同 二丁目 市村羽左衛門

同 三丁目 河原崎権之助

五三五十三吉 立役巻頭 嵐璃寛

五三五十三吉 立役巻袖 ひくてたのもしくてたのもしくれぬ花

五三五十三吉 立役 丸岡我童 ちるの人の乳まちの人の花

五三五十三吉 立役之部 嵐吉三郎 味の味の味乃なる和実の花

五三五十三吉 前川小国浪

小まのさいさ法ひらきの花

上上吉 中村福助
市川高麗蔵

弦月丸物うり参詣乃ちえ

上上吉 市川猿蔵
坂東竹三郎

きんとしさんあげの若鳥の花

上上吉 中村芝雀

しぶのは初しぐれ切れ花

上上吉 嵐和三郎

すき申ゝ稼ぎふ出世乃花

大上上吉 ▲豆腐後家見
坂東彦三郎

とぶ〳〵てもおいとの花

▲独楽油

上上吉 森田勘弥

初役でも文のよい仕事の花

▲実説敵役之部

上上吉 大谷友右衛門

二番目とゝぬ実説の花

上上吉 中村仲介

おいとゝゆ〳〵〳〵新糸の花

上上吉 浅尾奥山

祝の代〳〵ちよ〳〵この花

上上吉 中村芦燕

故ゆゑよい弁舌の花

上上吉 中山市蔵

文弘のちゑが敵役乃花

上上 関屋仁介
中村駒右衛門

中村鶴太郎

▲若井形之部

尾上梅蔵

▲若井形之部

坂東寿三郎

▲若井形之部

尾上菊蔵

岩井桑蔵

市川團之介

上上吉

上上吉

上上吉

▲懇後見
中村富蔵

▲頭取之部
[illegible]
[illegible]
三條勘太郎
中村森太郎

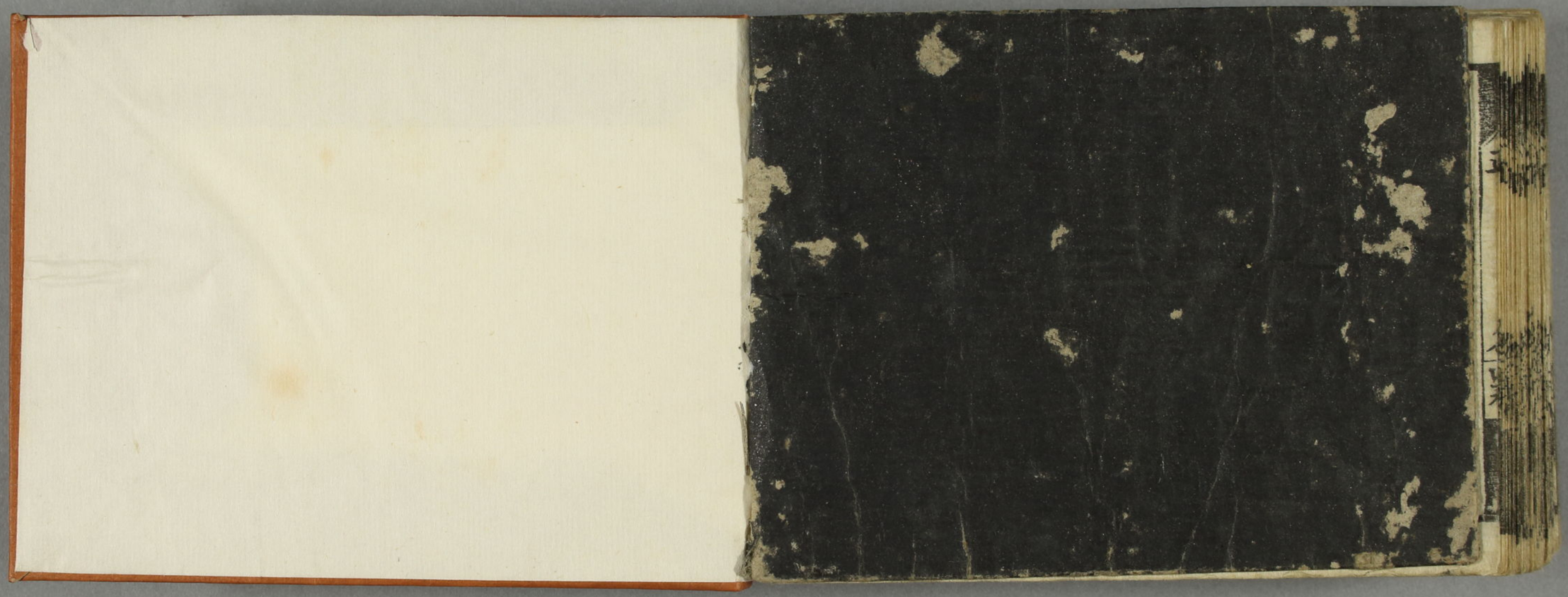
▲世話方之部
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

千秋舎万屋家蔵之印

奥額

安政二乙卯年正月

大坂書林
河内屋平七

京都書林
吉野屋勘兵衛

名古屋書林
金鋼屋朱藏